

国際貢献

防災科研では「積極的な国際展開」を基本目標の一つに掲げ、海外の機関と共同で研究開発等を行うとともに、相手国の自立性と協力による効果の持続性に留意しつつ、開発途上国との協力を進めています。

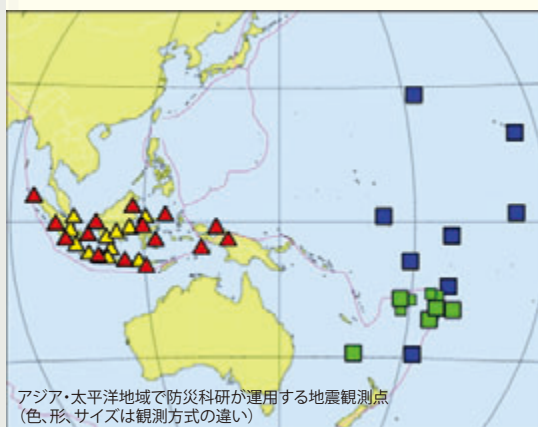
国際的な共同研究や 開発途上国への研究支援

科学技術協力協定などの下、約20カ国と約30のテーマについて、共同研究を実施しています。また、国際協力機構(JICA)などと協力し専門家を開発途上国へ派遣したり、研修生を受け入れたりしています。



国際ワークショップの開催

主催または共催により、「2004年インド洋巨大地震・津波国際会議(2005年12月、東京)」、「アジア科学技術フォーラム(2005,2006,2007年、東京)」、「アジア防災科学技術フォーラム(2006年、ジャカルタ)」等多くの国際会議を開催しています。



インドネシアおよび南西太平洋諸国(フィジー、トンガ、ニウエ、豪州)において、インドネシア気象地球物理庁をはじめ各国の地震観測機関と共同で広帯域地震観測と地震津波監視の高度化および地震発生メカニズムの解明に関する共同研究を実施しています。また韓国、台湾との地震波形データの交換、米国IRISと共同での太平洋地域の地震観測網整備、JICAによる開発途上国の地震観測網整備への協力等も行っています。

アジア・太平洋における 地震観測



エクアドルの火山監視を行っているエクアドル国立理工科大学地球物理研究所との間で、火山活動プロセスの解明に関する国際共同研究を実施しています。本共同研究と、防災科研が国内協力機関となっているJICA技術協力プロジェクトにより整備中の観測システムが、2006年7月のトゥングラワ火山噴火の際には、数千人の住民の避難に役立つ情報を発信しました。

エクアドルとの 火山観測研究に関する国際協力



独立行政法人 防災科学技術研究所
〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1 Tel 029-851-1611

